

Iメイト会員交流会で時間と空間の広がりを実感



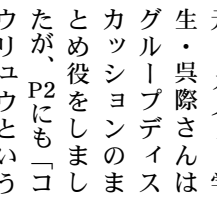
「外国に住むということ」について話す 上 高子事務局長

恒例の秋のIメイト会員交流会は、11月21日(日)午後2時〜5時、28名の参加者で実施されました。会場は中村一郎監事のご協力を得て、勤務先の会社である三井住友海上の研修所をお借りしました。

参加者の自己紹介
参加者のうち9名は、中国からの留学生ならびに研修生。最初は自己紹介から始まりました。日本人参加者のうち、半数以上が一年以上外国に住んだことのある会員で、その体験がアジア風への入会やIメイト活動の動機になっていることがよく分かりました。

外国に住むと自国がよく見える
引き続き、上 高子事務局長から、「外国に住むということ」と題するテーマで30分ほど米国の滞在の体験に基づく話がありました。「自国を客観視するようになることで、自国の良い面も悪い面も含め特徴がわかるようになること」、「また自国について多様な視点があることに気づくこと」が提起されました。留学生には、これまで当たり前と思っていたことを問い直し、この機会を生かして「多文化共生」を学んでほしいと締めました。

皆で楽しんだ親睦タイム
上位三名に用意された豪華賞品を目指し、ジャンケンゲームに夢中になりました。



（まとめ役の呉殿さん）

その後、元清華大派遣の日本語教員だった高井曜子先生が会員の竹宮聡さんとの結婚を祝う花束を、学生代表の区敏芝さんから受け取られました。

P3に高井先生の投稿があります。
グループディスカッション
その後、いつものように、4つのグループに分かれIメイト交流についての気づきなどが話し合われました。学生たちが、この交流でどれほどIメイトから学び、また助けられているか、ということが実感された交流会でもありました。

北京大学院からインターンとして来日中の元Iメイト学生・呉殿さんはグループディスカッションのまとめ役をしましたが、P2にも「コウリュウ」という



（まとめ役の杉本茂樹さん）

から、「熟年の日本人男性もなかなかやるもんだ」という感想がありました。

1月24日のタマサート大

学訪問での再会を約して学



（参加者全員で記念撮影）

認定NPO法人 アジアの新しい風

第30号 2011年 (冬)

恒例の秋のIメイト会員交流会は、11月21日(日)午後2時〜5時、28名の参加者で実施されました。会場は中村一郎監事のご協力を得て、勤務先の会社である三井住友海上の研修所をお借りしました。

参加者の自己紹介

その後、元清華大派遣の日本語教員だった高井曜子先生が会員の竹宮聡さんとの結婚を祝う花束を、学生代表の区敏芝さんから受け取られました。

グループディスカッション

その後、いつものように、4つのグループに分かれIメイト交流についての気づきなどが話し合われました。学生たちが、この交流でどれほどIメイトから学び、また助けられているか、ということ

タマサート大学との交流会

タマサート大学は毎年、秋休みを利用して、岩手県への短期留学を実施しています。今年も15名の学生がやってきました。このうちIメイトの学生が6名いるので、帰途東京で交流会をしたいという申し出が、大学側からありました。

11月4日(木) 10時〜12時半まで、ランチをはさんで、JICA地球ひろばで行われました。平日にもかかわらず会員の参加は17名で、Iメイト同士のご対面を果たしました。学生からタイの民族舞踊が披露(写真)されましたので、日本人会員は全員で「もみじ」を合唱。また園田成和さんが日本とタイの歴史を話した後、「君は一人じゃない」という歌を素晴らしい声量で独唱、坂上勝朗さんがハモ二カで数曲独奏をしてくださいました。学生たちからは、「熟年の日本人男性もなかなかやるもんだ」という感想がありました。

1月24日のタマサート大

もの」について投稿しています。アジア風のIメイト交流が、ただのメール交流にとどまらず、時間と空間が広がっていくことの喜びを全会員のみなさんに味わっていただきたいと願っています。

次回Iメイト交流会は春に行われますので、ぜひご参加ください。

認定NPO法人 アジアの新しい風

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414
TEL/FAX 03-5426-6714
http://www.npo-asia.org new-wind2006@npo-asia.org

Iメイト便り



Iメイトって? Internet, 愛, (出)会いのアイ

今号では現在企業研修生及び留学生として来日されている学生との交流メールをご紹介します。日本で生活するに当たってのアドバイスを訊ねる俞さんの前向きな姿勢と、日本語スピーチや読後感想文に健闘された馨心さんの努力が綴られております。ご協力戴いたIメイト会員の皆様にお礼を申し上げます。



(清華大学Iメイト交流コーディネーター 古澤サヨ子)

奥山 正昭さんと俞孟令さん

俞孟令さん→奥山さん (2010年3月14日)



—前略— 私は今年の七月に日本へ留学するので、日本の生活について興味があります。日本の生活と言え、何となくまずゴミを分類する制度を思い浮かべます。中国ではまだそのような制度をあらずに、了解したいです。日本のゴミ分類について、教えてもらえればありがたいです。

奥山さん→俞孟令さん (2010年3月16日)



—前略— さて、質問いただいた日本のゴミの分別について、説明したいと思います。ゴミ分別の目的は、「正しく分別して資源の再利用」が基本です。つまり、限りある資源を使い切ってしまう前に、ゴミを増やさず再利用できる循環型社会へ移行させることです。—中略— ゴミの分別の目的は、次の4つの考え方で循環型社会をつくることです。この考え方はリデュース、リユース、リサイクル、リフューズの頭文字をとって4Rと呼ばれています。家庭から出るゴミで資源になるゴミには、瓶、缶、ペットボトル、紙、プラスチックがあり各自自治体により分別内容が多少異なります。各家庭が分別して、所定のゴミ集積場所に持ち込み、そのゴミを各自自治体が回収車で回収する仕組みとなっています。

—後略—

俞孟令さん→奥山さん (2010年4月3日)

—前略— 日本でのゴミ分別について、親切な説明をしてくれ、ありがとうございます。実は、日本にいる先輩たちから、日本社会の習慣やルールをよく理解しないので、困ってなつたと聞くこともありました。半年後、私も日本へ留学に行くので、日本に対してもっと深く理解せねばならないと思います。

横山容子さんと張馨心さん

横山さん→馨心さん (2010年3月30日)



—前略— 馨心さん、スピーチコンテスト初戦突破すごい!(^_^) 原稿(げんこう)は見ないで話すの? 何分くらい? 決勝戦頑張ってくださいね、応援してますよ、(^o^)/ アジ風の読後感想文大会には参加しますか? 今回の課題図書は『東京坊ちゃん』と『とんび』です。私も『東京坊ちゃん』は読み終わり、今『とんび』を読んでます。何かわからない言葉などあったら何でも聞いてくださいね。授業の勉強に宿題、課題、学生はやることがいっぱい。大変だけれども学ぶことによってどんどん世界が広がりますね。 —後略—

浅草羽子板市で馨心さんと (2010年12月18日)

馨心さん→横山さん (2010年4月20日)

—前略— 4月の10、スピーチコンテストに参加しました。容子さんをいったとおりに、原稿は見ないで皆さんのままで発表しました。容子さんから応援をしてくれて、ほんとにありがとうございます! でも、残念ですが。。正常に表現をしましたが、失敗しました。でも、それはいい体験ですよ。他の選手たちから大変勉強になりました—中略—

私はアジ風からの『東京坊ちゃん』を読んでいました。本を読んでいる間、いろいろなところで、なんか作者の体験と同じような回想をいっぱい思い出しました。それに、子供のときのことをずっと頭の中に浮かべています。すごく感動します。でも、授業や宿題や試験や忙しいので、読む時間がちょっと厳しいです。いままで、60%を読んで、いまから私が頑張って読みましょう! 感想文大会に参加したいんです。ですから、五月の休みのとき、感想文を一所懸命書くつもりです。 —後略—

編集後記

昨年政治、経済、外交では不毛の年でしたが、アジ風にとっては追い風の年になりました。一昨年念願の認定NPO法人に認められ、今年からは何もかもが増税の中でアジ風への寄付金が税額控除に認められ減税となる見込みです。昨年12月21日の朝日新聞夕刊一面のニッポン人・脈・記の特集「NPO前へ」では私たちのアジ風の林理事長が笑顔の大きな写真入りで日本のNPO生みの親として紹介されました。

(新井 雅夫)

「断、捨、離」というライフスタイルが注目されている。物欲を断つ、物を捨てる、物質文明から離れる、とでもいうか、スローライフやロハス生活に通じるものらしい。物質文明へ極端に振れた振り子の、揺り戻しという面もあるのだろう。我々が対話をする途上国の、しかも若者にとっては、にわかには受け入れがたい価値観かもしれないが、経済発展を求めてきた結果の日本を顧みて、幸せとは何かを「伝える」という使命があるのではないかと、思う。

(上 高子)

あけましておめでとございます。皆さま良いお年をお迎えのことと思います。さて、昨年のテレビ番組の年間視聴率ランキング一位は「龍馬伝」だったそうです。やはり時代は坂本龍馬のような人物を待望しているのかもしれない。(福山雅治もかっこよかったし)

今年も今年。うさぎにあやかって飛躍の年になってほしいものです。今年もアジ風とアジ風新聞をよろしく願います。

(藤原 玲子)

無農薬・無化学肥料農業への招待

農業と化学肥料に頼った農業をあらため、自然の力にあふれる農産物を広めたい

水河の大地から生まれた「カナディアンフミンHNC」と共に、私たちは安全で地球環境にやさしい食料生産を目指します

株式会社 アイシー・バイオ
http://canadian-humic.com
アジ風の活動を支援する法人会員です



（民族舞踏を踊る留学生）

生たちが去った後、会員はグループに分かれIメイト交流について話し合いました。学生が学んでいる教科書を手として日本語支援に役立てたいという発案があり、その後Iメイト通信でお知らせしましたが、熱心なご指導には大変感謝を受けました。

なお、アジ風が所属する世田谷区世界交流プロジェクトから取材があり、1月29日(土)に世田谷区内で他のNPOともどもアジ風について、この時の写真や資料によって広報宣伝されます。社会貢献を考えている人たちから、入会者が増えたらうれしいですね。

Iメイト留学生が優勝しました!

—日本語スピーチコンテスト—

12月12日、早稲田大学小野記念講堂にて、留学生による日本語スピーチコンテストが開催されました(主催・早稲田大学国際学生友好会。八名の弁士の中で清華大学から留学中の、王錫鉞(オウシエツ)さんが最優秀賞を獲得しました。演題は「お酒と縁」—留学生生活の寂しさと辛さを吹き飛ばしてくれた「魔法のお酒」と「素敵な縁」にまつわる自身の体験を披露。賞品はJTBの旅行券2万円でした。シエツさんは謙虚に述べています。「私ひとりの力で優勝したわけではありません。Iメイトの藤原ひさ子さんが、私の原稿に貴重なアドバイスをくださいました」。



（優勝杯を受け取る王さんの）

—新春交流会へお誘い!—

日時 2月5日(土) 11時〜14時
会場 JICA地球ひろば(日比谷線広尾駅徒歩3分) 交流会の内容

- ・タマサート大学訪問旅行報告
- ・タマサートへ赴任する後任教師の挨拶
- ・留学生へのインタビュー「日本のイメージと実際」
- ・グループディスカッション

「日本の、アジアのこれから」

留学生支援ネット ボランティアになって

今年の8月から留学生支援ネット、ボランティアのお誘いを受け仲間に入れて頂くことになりました。今年も交流三大学から留学生達が来日して下さりますが、学生達が日本で生き生きと活動するのを支援し、またアジ風の皆さんとの交流会を企画実施しています。



留学生支援はいろいろな形で実施されています。たとえば、Iメイトの日本での里親的な役割を担っている方もいます。アジ風が企画した年間行事(春の花見、夏の登山、秋の交流会、各種見学会等)に参加しているという話をしながら留学生のサポートをして行く等があります。また新企画として会員の皆様からの提案も歓迎しています。

コウリウユウというもの

9月21日から12月17日まで、港区役所の国際化推進担当で研修をしていました。長いようで短い三ヶ月間で、港区政の概要、区役所の業務などについて勉強できた上に、大勢の人と知り合え、とても有意義な研修でした。この三ヶ月を一言で表すと「交流」となるでしょう。



研修先の国際化推進担当は「国際化推進プラン」の作成と実施、外国語相談員の設置、生活情報案内冊子の配布など、外国人に円滑に日本社会に入ってもらうため、多くの施策を採っています。その他、外国人座談会をはじめとする一連の交流会を開き、外国人の生の意見を伺って、彼らのニーズに応えられるよう努力しています。皆さんはとも積極的に、日本人からいう「外国人」の視点から、様々な港区の良い点・改善できる点を教えて下さいました。

清華大学でちょっとした異変が

吉田明先生

早朝、外は零度を下回る冷気である。教室のある三教(建物の名。文系の講義が多い教室棟)に近づく、外に立ったままで外国語の暗記に精をだす学生にでくわす。お湯を入れた水筒を両手ではさみ、わずかの暖をとっている。こうしたがんばりは、1月中旬にピークを迎えた後期試験にどう生かされるのだろうか。

今年開学百周年を迎える名門大学で、ちょっとした「異変」がおきた。北京市文物局からおしかりを受けたのだ。「二校門」という白い門の前で記念写真をとった人も多いだろうが、この門をくぐると学生の宿舎だった「清華学堂」をはじめとする開学初期の建物がある。



「清華学堂」のトタン

「清華学堂」は全国重点文物保护单位、日本でいえば国指定の歴史的建造物だ。工事にあたっては、詳しい計画書を提出し、当局に申請せねばならぬのに、これを怠っていた。そればかりか、この火事の5日前に北京市文物局が呼びかけた安全会議に、清華大学関係者が欠席していたことも露見してしまった。

いつもにぎわう タマサート大学の食堂 盛田真規子先生



学生と職員でいっぱいの食堂の様子

こんにちは。今回は日本語学科がある教養学部棟から一番近い食堂の様子をお伝えします。一番近いといっても、歩いて7〜8分くらいの距離にあります。ここには、様々なタイ料理の店や飲み物の店などが8〜10軒入っています。ほとんどが注文を受けて、その場でご飯や麺類を調理して出す店です。1品の値段は約30パーツと格安です。日本料理のようなものを出す店もあり、かつ丼やカレーや鯖定食が食べられます。

分が楽しむ形で行事に参加して頂ければよく、留学生達は共に楽しみながら十分に多くのものを吸収してくれるように思います。ただ最近国と国の政治の問題があまり良い方向に向かっているのではないので、留学生達の重荷になっていないかと懸念しています。国と国の問題は、イデオロギー、宗教、資源、環境、国の政治事情等で世界の多くの地域で発生しています。これらの問題を武力と言う手段で無理やり解決する時代はとうの昔の話で、武力の進んだ今は忍耐強く双方話し合いで解決を見出していかなければ不幸な結果を招き兼ねません。この様な時代の中で十分な話し合いをするためにはお互いに相手国の文化を理解することは非常に重要となります。このような時アジ風が進めている異文化交流は国と国の話し合いを進める上で重要な役割の一端を担うものです。来日している留学生の皆さんが日本語を武器にして、また日本での文化交流の経験を生かして、将来国と国が仲良くして行ける様大きな力を発揮してくれるだろうと期待しています。将来を見すえ多くの会員の皆様と共に楽しみながら留学生支援を進めたいと思っています。

(Iメイト会員 伊達和人)

中行事」というイベントで、お正月・クリスマスなど子どもたちに馴染みがある祝日を取り上げ、一緒に切り紙やカード作りをしたり、昔話や写真を交えたりしながら、中国の文化を簡単に紹介しました。もう一つは「水餃子から知る中国文化」というイベントです。男女平等映画センターで水餃子を皮から作りながら、中国の食文化を紹介しました。その時、岸本さん、古澤さん、上さん、園木さんなどアジ風の方も来てくださったとても嬉しかったです。

「交流」には政府間の課題だけではなく、草の根からの努力も必要です。相手を尊重し、相手の意見を傾聴します。できるだけ相手の立場に立つて考えます。もちろん、交流を続けていけば、齟齬や軋轢も生じるでしょう。しかし、その問題を乗り越えてこそ、互いの理解はより深いものになり、「交流」は大きく発展することができるでしょう。「交流」はそれほど難しいものではありません。ただ一つ大切なのは、困難があっても交流したいという気持ちを忘れないことだと考えています。

(元Iメイト学生 北京大学院日本語専攻 呉際 (編集部注・呉際さんは北京外国語大学時、園木宏志さんのIメイトでした))

盛り上がるIメイト交流 増本純子先生

ハノイ貿易大学創立50周年行事が11月中旬にあり日本語クラブは(もみじ)という名の店を出し、浴衣を着せてあげたり手作りのものを売ったりと大忙しだった。さらに日本の大学からいらした先生方のお世話を頼まれ大活躍の日々であった。私は「労働英雄称号授与式及び50周年式典」の招待状を頂き、式典に参加。お昼は「先生の日のパーティー」にお招きを頂き、ベトナム人の先生方と楽しい一時を過ごした。

Iメイト活動が軌道に乗ってきた。活動をより強固なものにするために、メンバーの思いを共有し日本語力を向上させる活動を始めた。まずクラブウェブサイトに日本語翻訳お助けコーナーができた。Iメイト交流で分からなかった言葉を書き、クラブ内の分かる人が教える。それでも分からないときは私にヘルプがくる。さらに会話勉強会を立ち上げた。勉強会に参加することは日本を知り日本語力がアップするだけでなく、Iメイトの学生が顔を合わせるいい機会になる。第1回は青空教室。第2回からは学部のご好意もあり教室で行っている。積極的に活動する学生を見て、さすが日本語クラブと嬉しく思っている。12月はIメイト会員に日本から持ってきたいたパンフレットを使って会話勉強会をした。初めて見る日本のパンフレットに感嘆しきり。大変な盛り上がりがあった。

(ベトナム・貿易大学派遣教師)

会員紹介

杉本 茂樹さん

交流 深い問題が起き、緊張が高まっていく時こそ、民衆の間の対話が必要ではないでしょうか」とIメイト交流の真髓に触れた時には「我が意を得たり」の思いだった。

「タマサート大のIメイト女子学生が日本に留学して来て対面した時です。初めて会った感じはなく、懐かしさが込み上げてきました」と振り返る。この1月に2度目の大学訪問での再会を楽しみにしている。メール交換の模様も披露してもらった。



タイのIメイトから「日本人の顔は無表情に見える。なぜ？」普段、考えていない質問に面喰らう。「日本人は喜怒哀楽を余り表に出さない。無表情に見えても表情はある、と能面の話などで縷々説明した。解ってくれたかどうか」。また、中国の学生からは「日本人の『本音と建前』は何時頃から始まったのか?」。図書館で20冊以上調べ、『本音と建前』を対」として言われるようになったのは戦後、との結論に達し、その事を答えた。「学生の勉強にもなるでしょうが、自分にとっても勉強、再発見です」と。

最近では、ベトナムの学生と週1回、2時間のスカイプでの交流。密度の濃い交流には頭が下がった。(インタビューアー 正会員 園木宏志)

元派遣教師のごあいさつ 竹宮(高井) 曜子

皆さま、こんにちは。昨年6月まで清華大学に派遣されておりました高井です。今は東京にある大学や日本語学校で引き続き日本語教師をしています。

北京での2年間で、それまでの「多人数対個」というクラス内の授業だけでなく、Iメイト会員と学生のメール交流という様々な「個対個」の交流に関らせていただきました。その交流を垣間見ると、私個人では経験できない多文化交流の難しさや喜びを感じる時を与えられました。そこから思ったのは、自ら意識し考える個があり、相手を感じる個があり、その個が発信していることこそ交流は続いていくのだということ。これは、私自身の反省を含めての思いでもありました。帰国後の慌ただしい生活の中で来日中の新3年生に会えずにいたところ、11月のアジ風の交流会で懐かしい学生の皆さんと会うことができ、とても嬉しく、またアジ風が存在する有難く感じました。私事ですが結婚して竹宮となり(呼称は引き続き高井で結構です)、交流会ではかわいい花束とともに祝っていたことにも心より感謝しております。帰国して大きな環境の変化がありました。変わらぬアジ風の存在を思い出します。貴重な2年間の時をくださいましたアジ風の新しい風、そして清華大学の先生方に、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。(編集部注・ご主人の竹宮聡さんは初代Iメイト・オブ・ザ・イヤードです)



大学創立50周年記念行事で